

## 2013 年度 E.FORUM「全国スクールリーダー育成研修」 「スクールリーダー育成のための基礎講座」・「学校教育研究フェスタ」 実施の様子

2013年8月17日(土)～19日(月)、京都大学にて「スクールリーダー育成のための基礎講座」を行いました(二日目は「学校教育研究フェスタ」を兼ねています)。三日間を通して、北は北海道から南は鹿児島まで、89名の方にご参加いただきました。また、「学校教育研究フェスタ」に関しては、70名の方にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

### <1日目> 8月17日(土)

#### ●オープニング&自己紹介

研修運営担当の西岡加名恵准教授から本研修の概要説明をしました。参加者同士の自己紹介タイムを設け、全国各地から来られた方々の熱気が溢れる中でスタートしました。



#### ●ワークショップA:「カリキュラム設計:

##### パフォーマンス評価の進め方」 (担当: 西岡 加名恵)

カリキュラム改革をめぐる近年の政策動向についての説明の後、関心のある教科・単元のパフォーマンス課題を実際につくっていただくワークショップを行いました。また、ルーブリック(評価指標)についてご説明するとともに、ポートフォリオ評価法の活用についてもご提案しました。



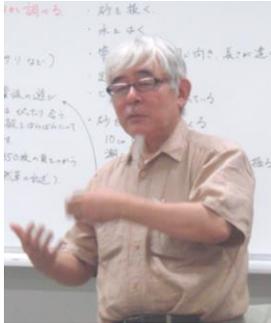
#### <参加者の声>

- ・ビデオなども交えてわかりやすく教えてください、ありがとうございました。実践してみて、またわからないところを明らかにしてみたいと思います。
- ・昨年度お話を聞かせていただきましたが、短時間だったため理解不足でした。今回あらためて聞かせていただいて、包括的問い・本質的な問い・永続的理解などについてすっかり納得することができました。

●ワークショップB:「思考力・対話力を育てる教材開発:

総合博物館を探究する」 (担当: 大野 照文・石井 英真)

「貝体新書」のワークショップを体験していただきました。その後、展示コーナー・資料の見学をし、好きな展示を選んで教材開発の実習を行いました。最後に、ワークショップを通して学んだこと、学校での授業づくりに生かせることなどについて意見交換がなされました。



<参加者の声>

- ・「ハマグリ」の「貝体新書」がおもしろかったです。その後の展示解説づくりの時間が短く、もっとじっくり考えて作成したかったなと思います。博物館の魅力が一段と引き立つ研修であったことには違いありません。ありがとうございました。
- ・博物館の展示物にある事実を根拠に、既知を未知にし、「なんで?」と考える楽しさ、視点が広がるよさを子どもにも味わえるように、実践を続けます。

<2日目> 8月18日(日)

●オープニング&自己紹介タイム

山名淳准教授の司会のもと、オープニング&自己紹介タイムが始まりました。前平泰志研究科長から「学校教育研究フェスタ」開会のご挨拶をしました。新たな参加者を交え、前日同様に自己紹介を行いました。



●講演「稽古のしなやかさ—世阿弥『伝書』における稽古の仕掛け」 (担当: 西平 直)

「稽古」の思想。その原点とされる世阿弥の『伝書』は不思議な魅力に満ちています。世阿弥にとって稽古の知恵は「自分自身との関わり方」の工夫なのです。「型」「無心」「離見の見」といった言葉を手がかりに、日本の思想の「しなやかさ」について考えました。



<参加者の声>

- ・とても深いお話でした。じっくり考えてから先生とゆっくりお話させていただきたいと思いました。人を育てるカリキュラムとして、文化を育む書として、幅広く考えさせられました。「器」その意味を考えたいと思います。ありがとうございました。
- ・子どもたちの教育にも十分に活用できる講演であったと思います。子どもの学びへの姿、教師として「教える」ということ、また、人生の悟りとしての見方もでき、様々な視点から考えることができました。

●講演「E.FORUM スタンダードとは何か」 (担当：西岡 加名恵)

E.FORUM で進められている「プロジェクト S」の趣旨や経緯の説明をするともに、E.FORUM が開設しているデータベース「E.FORUM Online (EFO)」についてご紹介しました。



<参加者の声>

- ・具体的な実践例が試案に記録され、とても参考になりました。EFO に登録して研修していきたいと思います。
- ・何回か参加して自分なりに取り組んできたことを、もう一度振り返る時間になりました。もう一度自分の考えを整理して、現場で実践していきたいと思います。

●教科等別分科会 (実践報告&実践交流)

教科ごとに「E.FORUM スタンダード(草稿)」の検討を行うため、三つの分科会を開催しました。付箋紙を用いたワークショップにより、様々な意見が出されました。また、参加者が持ち寄った資料をもとに実践交流を行いました。

① 総論 担当：西岡 加名恵(京都大学大学院教育学研究科 准教授)

- ◆「E.FORUM スタンダード」の提案と検討  
 技術・家庭科：北原 琢也(元・京都橘大学教授)  
 音楽科・美術科：小山 英恵(鳴門教育大学 准教授)
- ◆実践交流



<参加者の声>

- ・芸術系としての包括的問いについて、とてもすっきりと納得できました。同じところで悩み、共有できたことが何よりの成果でした。もう一度見直し、実践できそうです。
- ・自分の教科について、本質的な問い、理解について様々な意見交流ができたことは、とても勉強になりました。これからの授業で活用していこうと思います。

② 国語・社会・英語 担当: 鋒山 泰弘・赤沢 真世

◆「E.FORUM スタンダード」の提案と検討

国語科: 羽山 裕子(京都大学大学院生・日本学術振興会特別研究員)

社会科: 鋒山 泰弘(追手門学院大学心理学部 教授)

英語科: 赤沢 真世(立命館大学スポーツ健康科学部 准教授)

◆実践交流



<参加者の声>

- ・実践報告の中で、各教科・校種の先生方の悩みや日々の活動の状況を知ることができ、授業への取り組みのヒントをいただきました。また、スタンダード作りのための対話の重要性を感じました。
- ・小学校社会のグループだったので、同じ課題で話し合うことができ、大変有意義な時間となりました。スタンダード作りも、絞った話し合いができたので、面白かったです。完成したら、活用していきます。

③ 算数・数学・理科 担当: 石井 英真・中池 竜一

◆「E.FORUM スタンダード」の提案と検討

算数・数学科: 石井 英真(京都大学大学院教育学研究科 准教授)

理科: 中池 竜一(京都大学大学院教育学研究科 助教)



<参加者の声>

- ・高校の生物を専門としている私にとって、中学校・理科の E.FORUM スタンダードを考えるというのは、かなりハードルの高いものでした。もう少し広い視野・興味を持って、日頃から勉強しなければならないと感じました。
- ・同じ教科を専門とする先生方の実践例を生の声で聞くことができ、とても参考になりました。また、理解力不足な私の問い・理解・課題について、親身になって聞いて下さったグループの皆様大変感謝しております。

※各分科会参加人数

分科会	総論	国語・社会・英語	算数・数学・理科
参加人数	12	34	19

- 教科当別分科会終了後、研修評価アンケートにご記入いただきました。

<3日目> 8月19日(月)

●演習「E.FORUM Online の活用」

(担当：中池 竜一・松井 保樹・西岡 加名恵)

研修後もご活用いただけるよう、過去に蓄積されたデータの検索方法や、掲示板の利用方法などをご説明しました。また、今回つくったパフォーマンス課題などの作品を「E.FORUM Online」に入力していただきました。



<参加者の声>

- ・大変わかりやすく、ていねいに教えていただき、充実感がありました。現場へ戻っても活用させていただきます。
- ・どんどん活用させていただきます。自分なりのものも提案させていただきますので、添削をよろしく願います。

●クロージング

川崎良孝教授より、閉会のご挨拶と修了証書授与を行いました。その後、研修評価アンケートにご記入いただきました。受講者の皆様、大変お疲れ様でした！